

【(2) 教室環境】

⑦「学習の成果を掲示している」

《つまずきの背景》

J 言語表現の困難さ、L セルフモニタリングの困難さ、P 自尊感情の低下

《解説》

作文や俳句、観察日記など学習の成果物に、教師がよい点についてコメントを記入したり、丸を付けたりして掲示することにより、子どもは教師に認められたという思いを持ち、学習の励みになります。

学級の中には、書くことが苦手だったり、書いた内容に自信が持てなかったりする子どもがいます。教師がよい点を取り上げて、コメントを書いたり、丸を付けたりすることにより、子どもが自信を持つことにつながります。また、作文等を掲示することで、友達のものを見たり、教師のコメントを読んだりすることができ、どのように書けばよいか参考にすることが出来ます。

学習の成果物を掲示する場合には、事前に誤字脱字や落書きについてチェックし、訂正させてから掲示したり、このように書くとさらによくなるという改善点を示す書き方をしたりするなど、子どものプライドに配慮することも大切です。

【工夫点】

- ・子どものワークシートを掲示し、賞賛する。(小中)
- ・短作文を掲示する。(小中 工夫例 17)

◆工夫例 17「短作文を掲示する」

《小学校 6 年》

職員の打合せがない日（週 2 回）の朝の時間（10～15 分）を活用して、常時掲示している短作文のテーマから教師が一つを選び、短作文（200 字）を書かせます。

好きなテーマを子どもが選び、自主勉強してくる子どもも出てくるなど、取組を続けることで、書くことに対する抵抗が少なくなってきました。

書いたものに、教師が丸を付け、コメントを記入します。丸の付け方によって評価を変えるようにします。クリアファイルに入れて、後ろの掲示板に掲示することで、友達の短作文を読んで表現の仕方などを参考にする子どもが増え、短作文の内容も変わってきます。また、取組を続けることで、書くスピードも速くなります。

【自分に関すること】

○今日あったこと

○好きなものや人・・・

【自分以外の人のこと】

○私（ぼく）の友だち・・・

<助言：その人らしさが目立つような文を書こう>

【想像したこと】

○もしも～だったら

(例)

・もしもとうめい人間だったら・・・

【よく見、よく考えたこと】

○はてな？と思ったこと・・・

短作文テーマ

